

狭義の諺について藤沢は、「ある種類の教訓、警戒、風刺、またはその他の視察経験による知識をいいあらわしたものである」<sup>3</sup>としている。これについて、金子(1969)は次のように説明している。

ことわざは……民衆の中からいわばおのずから生まれ出たものである。…民衆がその体験によってみずから得た教訓なのである。……いわば、民衆同士が肩を叩いての忠言、助言である。<sup>4</sup>

ことわざは、民衆がその実生活の体験の中から、人間や人生に対する批評として生み出したものであり、また逆に、人間や人生を批評する場合にも用いられるものである。<sup>5</sup>

すなわち、諺は民衆により作り出された教訓であり、民衆同士の間の忠誠のことばであるが、この点について金丸(1983)は、「ことわざは、日常経験から生まれた民衆の知恵の結晶であり、民衆の行動の指針と言えます」<sup>6</sup>と述べている。

## 1. 2. 中国の諺(諺語)の定義

中国では、諺は一般に“諺”とか“語”とか、あるいは“諺語”とか呼ばれている。近代になって、中国の諺にも広義の定義と狭義の定義がある。広義の諺とは、人々の話し言葉に広く伝わっている俚諺、俗語のすべてを指すという見解であり、慣用語、歇後語などをともに含まれる。狭義の諺については、近代では多くの先行研究で郭紹虞の定義が採用されてきている。郭(1948)は、

諺とは、人間の実際の経験の結果であり、美しい語彙を用いて表現され、日常生活で、自由に使われて、人間の行為を規定する言語である。<sup>7</sup>

と定義している。80年代に入ると、狭義の諺の定義について、いくつかの見解が現われた。

武占坤、馬国凡(1983)は、

諺語は通俗简练、生动活泼的韵语或短句,它经常以口语的形式,在人民中间广泛地沿用和流传,是人民群众表现实际经验或感受的一种“现成话”。<sup>8</sup>(諺とは、だれにも分かりやすく簡潔で、生き生きとした韻文または短文である。諺は、一般に口語の表現形式によって民間に広く用いられ伝えられるもので、民衆が生活上の体験や感動を表現する一種の「既成語」である。)

と定義し、そして唐啓運(1981)は、

諺語是熟语的一种,是群众口头广泛流传的一种现成而固定的句子。<sup>9</sup>(諺とは、熟語の一種であり、民衆の間で話し言葉として広く流布している固定的な既成語である。)

諺語是群众智慧的结晶,是群众……对各方面的经验作的简洁有力的总结和概括。<sup>10</sup>(諺は、民衆の知恵の結晶であり……さまざまに経験が簡潔に、力強く総括されたものである。)

と解釈している。これらの定義に共通していることは、諺が民衆の実際の体験を総括したものであって、体験を伝えることを目的としているという点である。また、温端政は、「ことわざには、もう一つ別の働きがある。それは、客観的な事柄についての認識を伝えるという役割である」<sup>11</sup>と述べている。

以上から、中国語において諺(諺語)は、民衆によって作り出され、民衆の知恵、経験、認識を広く伝え、比較的固定的であって、簡潔で口語性の強い話し言葉であると定義することができよう。

## 1. 3. 両国の諺の定義における共通点

両国の諺の共通点をまとめてみると、次のようになる。

- ① 特定の作者がなく、民衆に作り出され、経験や認識を伝えるものであること。
- ② 古くから口伝えによって伝えられてきて、継承されてきたものであること。
- ③ 簡潔で通俗的であり、口語性が強いものであること。
- ④ 比較的定形性を有すること。ただし、その定形性は相対的なものであり、構造上かなりの融通性があること。
- ⑤ 民族の歴史や風俗、文化と深くかかわっているものが多いこと。

## 1. 4. 諺と世間観との関わり

以上述べたように、中両国において、諺の定義には共通点が多く存在している。諺は社会に生活する多くの人々の共通感覚として、名も知れない民衆により作り出され、多くの人々に用いられてきている。諺には人々が自然や社会の実践から得た経験や認識を表わすものが多いので、諺を分析することによつ